

1987年
OCIC日本カトリック映画大賞
大賞受賞

1988年
オーストリア・ブルーデンツ国際映画祭
審査員特別賞受賞

1987年 トロント国際映画祭正式招待
1987年 ウィーン・シネアジア映画祭正式招待
1987年 香港 第2回ジヤパン・インディペンデント・
フィルムフェスティバル正式招待
1988年 ニュージーランド現代日本映画祭参加
1988年 インド国際映画祭正式出品
1988年 メルボルン映画祭正式招待
1989年 東京国際映画祭正式招待
日本映画ペンクラブ推薦・文部省選定

あなたには
居場所がありますか？

伊藤智生 第一回監督作品
(TOHJIRO)

ゴンドラ

Gondola

現代に問いかける魂の旋律 ——
完成より30年を経て、リバイバル上映決定！

1986年 OMプロダクション製作
35mm・スタンダード・イーストマンカラー・劇映画・112分

キャスト：上村佳子・界 健太・木内みどり・佐々木すみ江・佐藤英夫・出門 英
スタッフ：撮影 瓜生敏彦・照明 渡辺 生・音楽 吉田 智・編集 掛須秀一
原案・脚本 伊藤智生・貴 耶子・プロデューサー 貞末麻哉子





ゴンドラ

Gondola

To Love again is to Live Again

話題性に頼ることなく、映画でしか成し得ない本当の獨創性にこだわって、当時20代の若者たちの参加によって独立プロで製作し、1988年に劇場公開された劇映画『ゴンドラ』。

完成から30年を経て今、美しい映像と幻想的な色彩に透明なメッセージを封印して、ひとりの少女の“心の対話の物語”を刻みこんだこの作品のリバイバル上映が決定！

古いけれど新しい…大事な忘れ物を思い出させてくれるこの映画を、ますます先が見えにくくなったこの現代に彷徨い、浮遊する、たくさんの“孤立する魂”に、今、あらためて届けたい。



gondola-movie.com

死んじゃうと、生きてたことってどこいっちゃうのかな —— 追い詰められ、張り裂けそうな喪失感… 都会、母子家庭、いじめ、孤立… 笑うことのない瞳を持った少女“かがり”は、窓拭きの青年と出遭った



—Story—

高層ビル街の上空。ゴンドラに乗って窓を拭く青年・良。窓ガラスの向こう側は彼にとって音のない別世界。眼下にはミニチュアールな都会の光景—ノイズが波の音に聴こえ、彼の目には海の幻が見える—。

11歳のかがりは、母・れい子とふたりでマンション暮らし。母は音楽家の夫と離婚し、夜の仕事で忙しい。かがりの晩ごはんは固食—彼女のひとり遊びの相手は、二羽の白い文鳥、そして音叉の響きに耳を澄ますことだった。

—Aの音— その響きは、かがりの心を落ち着かせ、調律した。ある日、鳥かこの文鳥が激しく争い、1羽が傷つく。瀕死のチーコを両掌に抱きとり、茫然自失として立ち尽すかがりを、窓の外を降りてきた窓掃除の良が目撃する…そして…

—Review— <公開当時にいただいたもの(敬称略)>

石井聰互(岳龍) (映画監督)

薄っぺらな愛と感動に占領された日本映画の銀幕(スクリーン)上の「乾ききった夢(ドライ・ドリーム)」を潤すに十分な、ナイーヴで水々しい感性にあふれた劇映画である。その美しきナイーヴさの底に秘められた「浮遊する魂」の叫びは、満たされない感動(カタルシス)の呼吸困難に喘ぐ、ガラスケースの中の観客たちの心の奥の大切な部分に、ある共振をひき起こすに違いない。

大林宣彦(映画監督)

まるで十歳の少女、そのもののような映画だ。ぶっくらぼうで、かたくなで、挑戦的で。だから限りなく優しく、いたわり深く、真の底からリアリストであるがゆえに、とめどなくロマンチズムを紡ぐ。十歳の少女は、それ自体、奇蹟だ。その少女の目から、人間を見た。その時、例えば、海は固有の物語となった。そこにこの作者のこだわりがある。ギクシャクしたそのこだわりが、ひとつの生命力を持ち、音楽となり、言葉となった。その言葉に耳を傾け、その心の響きに耳を澄ます喜びが、この映画にはある。

美しい映画だと、ほくは思う。

佐藤忠男(映画評論家)

「ゴンドラ」は、美しい情感を持った映画である。やさしく、心がかもっており、ていねいな仕上がりだ。映画づくりが総じてますます乱暴な方向に向かってゆく傾向の中において、これは貴重なことだと思う。

森崎 東(映画監督)

「ゴンドラ」は進る作品だ。水彩画の筆の動きに、微かな、幼児の記憶のように幽かな音を入れる、という感性の進りに、日本映画、いや全映画の中で、かつてなかったこの大胆で繊細きわまる感性の進りに、そしてラストシーンの夥しい灯のゆらめきの進るような美しさに感動しない人はいない筈だ。

失われた命の旋律を求めて、ふたりが向かったのは —— 暖かい北 ——



渋谷・ユーロスペースにて一週間の限定レイトショー
(オリジナル35ミリフィルムにて上映)

2017年
1/28 (土)より

ユーロスペース

EUROSPACE
TEL:03-3461-0211

ポレポレ東中野にて二週間 デジタル・リマスター版にて上映

2017年
2/11 (土)より



ポレポレ東中野
www.mmjp.or.jp/pole2/
TEL:03-3371-0088